

めぐりつと紫波

第3回「水資源循環と漁協の石けん“わかしお”」

地域パートナーシップ支援センター 小野紀之(日詰在住)

みなさんは紫波マルシェの生花コーナー入り口で岩手県漁業協同組合連合会(県漁連)の石けん“わかしお”が販売されていることをご存知ですか(製造メーカーであるエスケー石鹸の石けん製品も販売)。

紫波町の有機資源循環、森林資源循環は、地域内完結型ですすめられています。水はさらに広域、地球規模での循環をしています。環境問題はその地域だけで解決できるものではなく、個人から地域、地域から全国、世界へと拡大していかなくてはなりません。

そこで紫波町は、新たな循環型まちづくり推進活動として2006年「水のゆくえ～森と水循環講座」を開講。その第5回講座で講師を務めた県漁連の川崎氏から合成洗剤による漁場の水質汚染の現状とその解決に向けた石けんの普及活動が報告されました。多くの受講生からは、石けんと言われてもお店で何を買えばよいのかわからないという意見が多く出されました。具体的にメーカーの商品はすすめられないなか、講座企画を担当した私たちが提案したのが、県漁連の“わかしお”石けんの販売

でした。海を生活の糧とする同じ県民が海を守るために石けんを推奨しているのであれば、内陸ではあるが北上川を通じて海とつながっている紫波町も循環型まちづくりの一環として水を守る行動をしてみてもいいだろうか、と。

その後すぐに県漁連と交渉し、紫あ波せ本舗(当時。現・紫波町環境・循環PRセンター内にあった)で販売を開始しました。同時に紫波町役場(当時は旧役場)のトイレ、炊事場にもわかしお石けんを置き、県漁連の石けんであることの掲示を行ってきました。このときも有機資源循環と同様に、まず環境のためではなく、同じ県民が海の汚れて困っていることへの思いやりのこころを根拠に始めた行動でした。

「わかしお」は、組合員100名ほどの漁業協同組合の小さな草の根運動から始まりました。それは1960年代から直販事業に取り組み始めたある組合が事業の推進中に得た水質汚染に関する情報からでした。「これからは、家庭からの雑排水が海を汚すことになる恐れがある。その原因の一つが合成洗剤である」と。

紫あ波せ本舗で「わかしお石けん」販売開始

環境・循環PRセンター(紫波中央駅隣り)で天然油脂を原料にした「わかしお石けん」の取り扱いを始めました。県内陸部での販売は、カワトク吉番館(盛岡市)に続き、二カ所目となります。



天然油脂から作られる石けんは、主に石油から作られる合成洗剤に比べて自然物質に分解されやすく、環境にやさしいという特徴があります。「海や川を守るためには、洗剤が魚や水生生物へ与える影響などを理解し、身近なところから取り組んでいくことが大切」と、十一月の森と水循環講座の中で、講師の川崎さんも話していました。

漁場の環境保全のためには、沿岸部の人たちだけが努力するのではなく、上流域に暮らすわたしたちも連携することが必要です。水産物を消費している消費者としても、安全・安心な食べ物のために協力していきましょう。

■問合せ/紫あ波せ本舗

紫波中央駅前1-2-2(紫波中央駅隣り)

紫波ネット12月号No.709に左記の記事が掲載されました。現在、紫あ波せ本舗は閉店しています。

めぐりつと紫波では2020年の“新世紀未来宣言”20周年を前にして、町が取組んできた「循環型まちづくり」を確認し、さらにこれからの課題について6回シリーズで掲載していきます。

これをきっかけに海産物に対する消費者の安全安心への高い関心を真摯に受け止め、合成洗剤の研究を進め、漁村の生活排水で海を汚さないために、組合と婦人部が一体となって、石けん利用運動を展開し、「わかしお」の製品化、販売へとつながっていったのです。

紫波町の有機資源循環も“子どもたちに安全な食を”という思いから始まりました。土も水も海も地域だけのものではなく、地球の一部です。でも、それらを守るための活動は、小さな地域の人たちの安心安全への思いから始められています。

沿岸の人たちの努力から始まった石けん普及活動に上流域に暮らす紫波町の人たちが連携し、森づくりにもつながりました。困っている人たちに対する思いやりのところから始まる小さな行動。

紫波町の循環型まちづくりは、これまでも全国的にいろいろと取り上げられてきましたが、開始当初から比べれば、現在はかなりトーンダウンしているような気がします。

ごみの分別、資源化。水の節約、排水への気くばり。省エネルギー。これからの子どもたちのことを考えるとまだまだやれることはたくさんあります。環境問題よりも人への思いやり。この気持ちが紫波町の循環型まちづくりの基本です。

ぜひ、紫波マルシェに立ち寄る機会がありましたら、「わかしお」を手にとってみてください。きっと、漁師さんたちの笑顔が見えてくるはずです。



『紫波マルシェ わかしお石けん』販売店



「わかしお石けん」を製造しているエスケー石鹸(株)の商品は、もともと天然油脂から作られており、排水された後も分解されやすく環境への影響が少ないという特徴があります。



「石けんはどうも・・・」という方は、まず、固形石けんから使ってみてはいかがでしょうか。

左は固形石けん。浴室や洗面所での肌や手洗いに使用できます。肌や手がしっとりし、これからの乾燥する季節にはもってこいの石けんです。また、右の石けんは、がんこな汚れを落としてくれます。靴下洗い、台所のふきん汚れに強い味方です。小さく切って使えます。



産直紫波マルシェ(花コーナー) ☎672-1504

紫波マルシェでは、ボディソープ・シャンプー・リンス等については、詰め替え用の袋しか置いてありません(ボトルでは販売していません)。そこで、主婦に人気の100均やホームセンターなどに置いてあるボトルを利用することで何度でも使用できます。また、わかしお粉せっけんの使用については、事前に溶かすなどの工夫が必要となりますので、使い方について、ご質問のある方は、紫波みらい研究所までご連絡ください。

NPO 法人紫波みらい研究所 ☎671-2244



ペレット・薪ストーブを設置したい方へ！

～町が進める循環型エコプロジェクト推進事業メニューから～

暑い!暑い!と言っていた夏が過ぎ、「寒いですね!」とロケに話す季節になってきました。「こたつを出した」「ストーブをつけている」といった家庭も増えてきました。

ストーブと一口でいっても燃料はさまざま、灯油や薪を使っている家、この頃ではオール電化の家が増えてきていますので、エアコンで暖をとっているという家も増えてきました。

今回は、紫波町が導入を進めている「ペレット・薪ストーブ」に焦点を当て、これらのストーブを購入することにより、環境に配慮した暮らしができることや紫波町独自のエコ bee ポイント(詳細は次頁)がもらえるメリットがあるということを紹介したいと思います。



ペレットストーブってなに？

薪や炭などと同様、木質バイオマスを燃料(ペレット)として使用するストーブです。ストーブ本体は紫波町内で販売している店舗、花巻や盛岡にも販売店があります。燃料は、使い勝手をよくするために、ペレットとして加工し、販売されています。

右上のストーブ(サンポット販売)は、燃料はペレットのみの使用ですが、電気を使用し、温度の調節、タイマーを設定することもできます。一般家庭用と業務用とがあります。

右下のストーブ(石村工業販売クラフトマン)は、電気を使わないペレット・薪兼用のストーブです。(本体価格はメーカーにお問い合わせください)

どちらのストーブにも使われているペレットは、主に製材端材をチップにし、さらに細かく粉碎したもの(おが屑)に熱と圧力をかけ、長さ1~2cm、直径6~12mmぐらいの粒状にしたものです。森林資源を有効活用するため、地球温暖化対策の一環として、町では、平成16年にペレット製造施設を建設し、17年度から稼働し始めました。これにより、町内外の森林の整備がすすみ、森が元気になります。

町では、年間200+以上のペレットを製造し、一般家庭のペレットストーブ(約20人)や公共施設のボイラーに使用されています。

【ペレットストーブの燃料】



火をつけるとカラコロ、コロッとペレットが落ちる音が聞こえ、窓から見える炎でいやされます。燃料の補充や下部にたまる灰の掃除など、手間は少しかかりますが、石油ストーブと違い、体がぽかぽかじんわりとぬくだまります。

紫波町環境循環 PR センター内のペレットストーブ



暖房だけでなく、焼肉・煮物・ダッチオーブン料理などが楽しめます。鋼鉄製で扉は南部鉄器です。重力でペレットが自動供給され、停電時にも安心です。ペレット20kgをストックでき、8時間以上燃焼可能。最大40cmの薪も入れることができます。

JR 紫波中央駅待合施設のペレット・薪兼用ストーブ

【ペレット販売先】要予約です。

○えこ3センター

紫波町土館字和山 173

電話 671-7878 FAX 671-7877

○紫波みらい研究所(紫波中央駅前)

電話 671-2244 FAX 671-2243

○1袋(10kg)

価格 520 円(税抜)、配達価格 570 円(税抜)



薪ストーブは？

薪ストーブは、皆さん、ご存知のとおり、電気を使わないので、環境に配慮した製品といえます。また、灯油を使うストーブは、消せばすぐ寒くなりますが、薪ストーブは遠赤外線効果で体の芯から暖かく、余熱もあり暖かさが残ります。やかんを乗せお湯も沸かせますし、鍋を置き調理もできます。音が静か（パチパチと薪がはぜる音）で、空気が乾燥しないのもメリットとしてあげられます。

薪の原料は主にナラや広葉樹ミックスです。スギやマツなどの針葉樹は煙突がつまりやすいなどと敬遠する人もいますが、しっかりと乾燥できていれば、そんなことはなく、ストーブを傷めることもないそうです。乾きが早いので、乾燥期間が短くて済むというメリットがあるので、春に薪づくりをし、その冬に焚くということも可能ということです。日本の森林の50%は針葉樹で、このうち多くを占める人工林は間伐を必要としています。実際には進んでいません。そこで、針葉樹の間伐材を薪として利用することで森林の整備を進めようという取組みも行われています。デメリットとしては、薪の調達や煙突の掃除が大変。薪に火が移って安定するまでの時間や薪をストーブに入れる手間がかかります。



しかし、火が燃えている時の炎のゆらぎが何ともいえないやさしいという人もおり、薪ストーブ愛好家はたくさんいます。



紫波町で薪を購入するには

「循環型まちづくり」を進めている紫波町には、環境にやさしい薪を販売している（一社）紫波町農林公社があります。紫波町産及び県内産のナラ材を中心に広葉樹、針葉樹を用意しています。支社で、原木から玉伐り、薪割、乾燥（自然乾燥）を行っており、含有率 18%以下の乾燥「薪」です。配達原則町内のみですが、町外についてはご相談ください。薪の価格や樹種などは農林公社へお電話でお問い合わせください。

【一般社団法人 紫波町農林公社】

電話 019-671-3525 FAX 671-3526



循環型エコプロジェクト推進事業について

CO2排出量に応じて、町が「エコ bee クーポン」という名の商品券を発行し、町内の「エコ・ショップしわ認定店」でその商品券を使ってもらうしくみの事業です。CO2の削減量を「見える化」して実感できるため、エコ活動の活発化と町内経済の活性化を目指しています。事業メニューは、ペレット・薪ストーブを設置する個人・法人にストーブ1台当たり20,000ポイントを差し上げるメニューのほか8つあり、CO2の削減量によってエコ bee ポイントを差し上げています。

詳しいことは、役場産業部 環境課までお問い合わせください。電話 672-2111(2251)

【イメージキャラクター「エコ bee ハニー☆しわっち」】
りんご・洋なし・ぶどうをモチーフに紫波総合高校の美術部の皆さんが作りました。



【紫波エコ bee クーポン券】

